令和３年度　大和中央高等学校　学校評価総括表

奈良県立大和中央高等学校（通信制）

教育目標	「自律」「敬愛」「進取」の校訓のもと、自主自立の精神をもって自分がなすべきことを適切に判断し行動できる生徒、情操豊かな心をもって自他の人格を尊重できる生徒、自ら進んで目標を定め、目標達成に向かって真剣に努力し、未来を切り開いていけるたくましさをもった生徒の育成を図る。	総合評価
運営方針	通信制の特長を生かし、生徒個々の実態に応じた指導を展開し、基礎学力の定着を図るとともに、自律的な生活態度と主体的に学ぶ姿勢を育てる。	B

前年度の成果と課題	本年度重点目標	具体的目標
・単位修得の向上がみられた。引続き、きめ細やかな指導を継続していく。 ・挨拶の励行により、習慣として身に付いてきた生徒が増加している。 ・生徒会活動も活発になっており、交流等も積極的に行っていきたい。 ・順慶まつりへの参加等、地域との連携を伴う学習活動は成果があった。 ・地域連携から通信制で頑張っている生徒の様子も伝わっていると評価をしていただいている。 ・SC や SSW との連携で生徒理解に対する情報共有が進み、生徒支援に繋がっている。 ・進路情報の迅速で適切な提供ができた。引続き関係各所との連携に努める。	(1)自立した社会人となるための基礎形成を図る。 (2)生徒理解による基礎学力の定着に努める。 (3) 好ましい人間関係構築能力や社会性を育む。 (4) 生徒の安全を守る取組を充実させる。 (5) 「命」を大切にする行動ができるよう、指導の浸透を図る。 (6) 働き方改革の推進を行う。	・教育活動全体を通して、規範意識や倫理観を粘り強く指導し、ＴＰＯに即した行動がとれるよう指導に努める。 ・キャリア教育や進路ガイダンスを推進し、進路意識の向上を図るとともに、進路未決定者の減少に努める。 ・学習指導の工夫と充実を図り、生徒の学習意欲の向上に努め、高校卒業という目標達成に向けた支援を行う。 ・SC や SSW と連携し、支援を要する生徒の的確な把握に一層努め、教職員間の共通理解をより深めながら対応する。 ・「地域と共にある学校づくり」を推進するなど、地域力に学びながら、社会性の育成に努める。 ・コロナ禍の中でも、生徒のより一層の活躍の場となるよう、学校行事等の工夫、見直しを行う。 ・危機管理マニュアル等の整備を進め、地域の協力を得て学校安全体制づくりを推進する。 ・「命の大切さ」を考えさせる取組を講演会や集会等も活用しながら展開する。 ・働き方改革の観点から、業務内容や役割分担等の適正化を図る。

評価項目	具体目標	具体的方策・評価指数	自己評価結果	成果と課題（評価結果の分析）	改善方法等	学校関係者評価及び改善方策
教務部	・多様な生徒たちの個々の願いに対応できる教育環境を作る。 ・学習指導の向上を図る。 ・地域との連携を図り、地域に貢献する事の大切さや社会性の育成を図る。 ・新学習指導要領の実施に向けて、より良い観点別評価の評価法について研究する。	・自学自習の方法を理解させ、生徒の気持ちを学習に向けさせるように努める。 ・各科目の単位修得率を前年度より高める。 ・生徒のレポート作成の支援のあり方について研究する。 ・情報発信機器の活用を進める。 ・地域との連携をさらに向上させ、その取り組みが教科科目にも生かせるよう努める。 ・通信制のシステムに応じた観点別評価の評価法について研修を深める。	B	・必履修科目の単位修得率は上がった。 ・生徒のレポート作成の支援は、個別指導が中心になるが、生徒が自主的に質問を出来る雰囲気作りがうまくいっている。 ・地域との連携についてはコロナ禍ということもありなかなかうまくいかなかった。 ・観点別評価を取り入れた教務内規の作成は出来た。	・必履修科目は１年次生が中心になるので、来年度に向けて、更に入学時の学習意欲を持ち続けられるように、生徒を導く必要がある。 ・基礎学力を上げる方法を研究し、生徒に自力でレポートを完成する。 ・達成感を持たせ、自己肯定感につなげていきたい。 ・コロナ禍であっても出来ることを考えていきたい。 ・観点別評価に適したレポート作成について、職員研修をするなどして研修を深める。 ・ＩＣＴを利用したスクーリングの実施方法を研究する。	・今年度も、コロナ禍により、例年当たり前にできていることが行えない一年だったと思います。一方で、コロナ禍だったからこそできたこともあると思います。 冷静に状況を見つめ、生徒にとってよい方法を、先生方で相談して、実施してください。 ・来年度から、新学習指導要領が完全実施となり、観点別評価やＢＹＯＤという新しい取組が始まります。通信制の実情にあった指導法を研究して下さい。
生徒指導部	・基本的生活習慣をしっかり身につけさせ、生徒が主体的に学習活動できるような環境をつくる。 ・積極的に生徒会活動に取り組み、より一層充実した地域活動に取り組む。 ・さまざまな問題を抱えている生徒の理解と相談しやすい環境をつくる。	・登下校時に校門や職員室で声をかけ、生徒と気軽に話しやすい状況をつくる。名前を呼んで声をかけることにより、生徒との距離が近くなるように努める。教員は、クラスの生徒はもとより、１０人以上の生徒に声をかけ、１０人以上と話す努力をする。 ・通学路の清掃活動には、５０人以上の参加、順慶まつりには、全生徒の半数以上は参加できるようにする。地域の方々との交流を深める。（保体環境部と共同） ・より一層、保護者、SC、SSW 等との連携を強化し、教師間で情報を共有しながら、適切な指導方法を模索する。	B	・マスクをしながらも挨拶ができる生徒が増えた。ソーシャルディスタンスを保ちながら職員室に出入りをする生徒も多い。職員と生徒の関係は良好で、明るい雰囲気が出ている。しかし、引き続き学習活動が進んでいない不登校生徒をいかに動機づけするかが課題である。 ・コロナ禍のもと、和みの会の中止など生徒会活動が十分できず、順慶まつりも中止となり地域との交流もできなかったが、そんななかでも先生方の努力により、コロナ感染予防対策を徹底しながら生徒会活動や生徒間交流の機会を積極的に提案・実施して頂いた。来年度は従来どおりの活動をしたい。 ・ＳＣやＳＳＷとの連携がうまくできている。教師間の情報交換も常に行っている。	・引き続きコロナ禍によって登校するタイミングを逃してしまい、また不登校傾向になってしまった生徒のケアが十分にできなかった。今後一層、電話や家庭訪問等をして、学習意欲を高めることに努めたい。 ・行事の縮小の中でもさまざまな取り組みを進めて頂いたがより一層生徒と協力して楽しめる行事を企画していきたい。 ・教師間の情報交換を常に行っているので連携がうまく行っている。このまま継続したい。	・マスクをつけての生活が当たり前になりました。来年度も、マスクをした新入生が入ってきて、生徒の顔を覚えるのに苦労されると思います。これまで同様に、細やかな声がけを実施していただくことをお願いします。
進路指導部	・進路指導体制を強化し、生徒の進路意識を向上させる。 ・進路選択に関わる情報の提供と適切な助言指導を行う。 ・総合学習「つどい②」の充実を図る。 ・部内の役割分担を偏ることなく、部員に適切に振り分け、また業務内容の精査も行う。	・進路希望調査や担任面談、生徒への日常的な声がけを通じて生徒の進路希望を把握する。 ・定時制や高進協、労働局との連絡を密にし、進路に関する情報を入手し、生徒に情報提供をおこなう。 ・総合学習「つどい②」において、自己を見つめ、自立した社会人になるための生き方や将来について考えさせる。 ・役割分担を適切に振り分けることで、一人一人の役割の適正化を図る。また、業務内容の見直しも図る。	B	・生徒の多様な進路希望に対し、適切な進路情報を迅速に提供できた。 ・進学や就職の面接試験に向けて、生徒が自信を持って臨めるよう十分に練習させることができた。 ・総合的な探究の時間「つどい②」において、進路目標を持つ大切さを伝えられた。 ・役割分担をしたが、作業量や内容が偏った。今後に向けて検討していきたい。	・担任だけでなく、全教員が積極的に生徒に声をかけ、また、面談などを通じて生徒の進路希望を把握するようにする。 ・保護者との連絡を密に取り、学校と保護者が協力して生徒の進路実現をめざす。 ・卒業対象生で、就職を希望する生徒の中にはアルバイト未経験の生徒も多い。卒業までにハローワークとのつながりを作り、卒業後の就職相談ができる環境をつくる。	・多様な進路希望を持っている通信制の生徒です。その希望に対応していただき、ありがとうございます。次年度も、生徒の希望が実現できるようにお願いします。
保体環境部	・心（精神的側面）身（身体的側面）ともに、常に生徒の健康状態に留意する。 ・多様な生徒が在籍する中で、適切で迅速な対処を行える教員の知識・技能・専門性を高める。 ・清掃活動を定期的に行い、校内外の美化に努め、安心・安全な学校環境を整える。 ・部内の役割分担を偏ることなく、部員に適切に振り分け、また業務内容の精査も行う。	・生徒の健康状態を把握するために、生徒の情報交換会議等を年間職員会議にて 6 回は行う。 ・コロナ対策として消毒・体温測定を生徒昇降口にて、消毒は教室でも徹底して行う。 ・教員への救命講習会を行い、教員全員が参加して AED を使用した心肺蘇生法等の専門的な知識・技能を身につける。また、SHL・SSW・SC と常に情報の共有を図り、連携を深めて適切な対応に努める。 ・通学路、教室、廊下等の清掃活動を年間 4 回は行い、生徒が学習活動を行いやすい環境づくりに努める。 ・役割分担を適切に振り分けることで、一人一人の役割の適正化を図る。また、業務内容の見直しも図る。	B	・毎回の職員会議の最後に生徒の情報交換を行ったが、健康状態についての提言は特に無かった。 ・コロナ対策として消毒・体温測定を生徒昇降口にて、消毒は教室でも徹底して行うことが出来た。生徒が自主的に行う習慣が身についた。 ・教員への救命講習会については、新型コロナウイルス感染対策のため、今年度は見合わせざるを得なかった。 ・通学路、教室、廊下等の清掃活動を２回行ったが、３回目は新型コロナウイルス感染対策のため、中止せざるを得なかった。生徒は教室を中心に清掃活動を通して、学習活動を行いやすい環境づくりに努める事が出来た。 ・健康診断を例年通り実施したが、尿検査を体調の具合で当日実施出来ない者に対して、再検査の日程を考慮する必要がある。 ・コロナ対策のため、体育大会をスポーツ交流会として実施した。	・今後も、健康状態に不安があり、学校で見守り続けなければならない生徒が生じた際は、この場で情報交換をし続けたい。 ・コロナ感染防止対策消毒として、昇降口での体温測定や手の消毒・教室移動の際の机上の除菌、マスク装着など、ほぼ徹底出来たように思う。 ・１０～１２月は、避難訓練など学校行事が毎週入っているので、清掃活動については、前期・後期のそれぞれに１回実施することにする。 ・尿検査の日程の間隔・曜日（日・火・水）について考慮していく。今年度と同じく、３回は実施したい。 ・来年度は、昨年度一昨年度と体育大会を実施出来なかったので、来年度はプログラムを再考し、コロナ感染対策を十分配慮して開催したい。	・コロナウイルスの脅威は、すぐには終息しないと思います。万が一のことがないように、学校でも十分に感染症対策をしていただき、安心して生徒が通える通信制にしていただけるようお願いします。 ・次年度も、今年度以上に、SHL・SSW・SC との連携を強くもっていただきたく思います。
総務人権部	・式典の内容を見直し、よりよい式典の実施に努める。 ・後援会、同窓会活動の活発化を図り、通信制について発信していく。 ・生徒の性格や特性を把握しながら、互いの人権を認め合い、自他共に大切にしていく心を育てる。 ・部内の業務内容を見直し、偏ることなく役割分担を行い、仕事の効率化を図る。	・前年度の反省や課題を元に、コロナ感染対策を徹底しながら綿密かつ明確なスケジュールのもと進める。 ・他分掌や後援会、同窓会、地域との連携を密にしながら諸活動や行事への協力体制をとれるようにする。 ・人権 HR、講演会、映画会の三本柱で人権学習会を実施する。案内文書に QR コードを入れ、参加申込をしやすいよう工夫する。 ・生徒の実態に即した内容の学習会を実施するため、研修を行う。 ・業務内容を見直し、部員全員で仕事を分担して行えるよう役割分担をする。	B	・新型コロナウイルス感染対策の徹底を図り、内容の縮小と時間の短縮を行いながら式典を実施することができた。 ・後援会総会は新型コロナウイルス感染対策を徹底して実施した。同窓会総会は中止した。また後援会及び同窓会役員の各行事への参加を中止したが、今後の活動に向けては連携をとりながら進めている。 ・案内や申し込みを徹底することにより多くの生徒の参加があった。生徒の実態に即した内容の講演会を実施し、自己理解を深めさせることができた。 ・役割分担を図りながら、業務をおこなった。更に細分化することにより業務分量のバランスがよくなり、仕事の効率が上がると思われる。	・新型コロナウイルス感染対策の徹底を図るため、検温・消毒をはじめ式典に参列者の制限等を行う。また、内容についても見直す。 ・本年度は、後援会総会は実施できたが、同窓会総会を実施できなかった。次年度以降どのようにしていくか、役員と連携を取りながら検討していく。 ・生徒の実態に即した内容の研修に努め、人権学習会の更なる工夫と充実を図る。 ・本年度の仕事の内容を見直し、反省を生かしながら、よりよい役割分担をおこない、仕事の効率が上がるよう工夫する。	・他校のようには人権 HR も十分な時間が取れないと思います。スクーリングや特別活動全体を通して、人権を尊重する生徒を育ててください。 ・コロナ禍で同窓会の活動が十分に実施できない１年間だったと思います。次年度はコロナが終息し活発な活動ができることを願っています。